

- 日 時 令和7年1月27日(月曜日) 午後6時30分～8時
- 場 所 武蔵野市役所8階811会議室
- 出席者 岩本会長、大久保副会長、安東委員、岩岡委員、久保田委員、後藤委員、佐藤委員、杉本委員、立野委員、西村委員、長谷川委員、福本委員、山本委員、横井委員、横山委員
- 事務局 障害者福祉課長、基幹相談支援センター長、管理係内主査、基幹相談支援センター係内主査

1 開会

2 障害者福祉課長あいさつ

3 配付資料確認

4 議事

(1) 専門部会の活動報告について

【委員】（相談支援ネットワーク部会）

11月23日に第6回、1月17日に第7回部会を開催した。

第6回部会では、12月16日の当事者部会での聞き取りの報告と課題について発表した。当事者部会では、誰もが行っていい場所、緊急時の相談先があるとよいという声が多かった。課題については、これまでの部会で事例を通して積み上げてきた5つの課題のうち、特に重要と思うものを各メンバーから2つずつ挙げてもらった結果、①年齢等のライフステージごとの相談への対応、③分野を超えた職員のつながりづくり、④新しい情報を手に入れやすくする仕組みが部会の総意となるのではないかという話になった。その後、課題の解決策を話し合う中で、①・③については地域包括ケア人材育成センターと連携できないか打診してみることにした。

第7回では、地域包括ケア人材育成センター訪問時の報告と今後の提言について話し合った。地域包括ケア人材育成センターにも参加していただき、部会のミッションである「重層的な相談支援ネットワークの強化に向けた武蔵野市の地域課題」について提言すること、これまでの活動を伝えた。地域包括ケア人材育成センターでも、どのように連携を図るかを検討されているとのことだった。今後について話し合った中で、地域包括ケア人材育成センターは市の委託事業なので、市に相談してほしいとの話があった。

今後、相談支援ネットワーク部会としてどのように提言をしたら良いかをみんなで考えて、3月の全体会で提言したい。

【委員】（相談支援ネットワーク部会）

当事者の皆さんから、つながってよかったと思う場所を聞いた中で、例えば、行きつけにしているタコ焼き屋さんの店員がすごく良い人でいろいろな話ができるようになったなど、私たちが想像もつかないようなところで、いろいろな形でつながっていることがわかった。また、それぞれの子ども食堂の特徴など、インフォーマルな社会資源を当事者の方は非常によく知っていることが印象に残った。

【会長】

「地域は資源のオアシス」という言葉がある。障害福祉や精神保健福祉といった狭義の社会資源は限定的だが、地域を見渡せばいろいろな社会資源がオアシスのようにあるという意味で、まさにそのとおりだなと思う。

【委員】（相談支援ネットワーク部会）

この2年間、地域課題について部会員みなさんと意見交換をしてきた中で、やはり障害種別や分野を超えた相談に対応できるということが必要だと感じている。現在、80・50問題や障害のある方の重度化・高齢化という問題があり、地域生活支援拠点等事業が開始されているが、私たち事業所間のつながりだけでなく、障害種別や分野、年齢を超えたつながりやインフォーマルなつながりが大事だということを改めて感じている。

2年間の活動を通して提言としてまとめていくにあたり、行政に任せるだけではなく、共に動いていくためにどうしたらいいかを一緒に考えていけたら良いと感じている。自立支援協議会の中で動いていくことも必要だし、事業所それぞれが動いたり、地域として動いていくところを含めて考えていけると良い。

【会長】

「そうだネむさしの」との協働についても何かあれば報告いただきたい。

【委員】（相談支援ネットワーク部会）

「そうだネむさしの」は地域の世話人役となっている任意の連絡会みたいなものである。以前、相談支援部会が無くなったときに、相談業務の人たちが話し合う場が必要なんじゃないかということで、任意で集まっていたものだが、今回、2月の部会では合同交流会を開催する予定にしている。その会に地域包括ケア人材育成センターの方も出席いただけると、分野を超えたネットワークの構築が少しできると思うので、参加できるか確認している。

【会長】

相談支援ネットワーク部会が会議報告として作成している、地域課題・今あるもの・あったらいいなというものを掲載した資料があるが、この資料は今後どのように活用していく予定か。

【委員】（相談支援ネットワーク部会）

事例を通して課題を抽出する中で、5つの課題が出ていて、それをまとめたものがこの資料になる。今回は、先ほど報告したように①・③と④から取り組んでみてはどうかという意見が出た。次年度以降も活動ができるようであれば、それぞれの課題ごとにまとめていきたいと思う。

【会長】

具体的に書かれていてとても分かりやすいので、ぜひ何かの形で生かしていただきたい。

【委員】（地域移行部会）

第7回の部会を12月18日に行った。報告事項2のすまいる萩窪との動機づけ支援について、12月4日に井之頭病院に行き、今回初めて、すまいる萩窪とすまいる高円寺が開催する患者との交流会を見学させていただいた。すまいるのスタッフ2名と、ピアサポーター5名、患者6名が参加し、退院後の生活についてというテーマで意見交換をした。

交流会を通して、関係性を築く上で継続して支援を行うことの大切さを感じた一方で、いろいろな方が関わることで地域移行に向けたスイッチが入るきっかけになるので、1人を中心にして、サブで何人かが入れ替わりで動機づけ支援に関わるのが理想的ではないかと感じた。

議題では、来年度予定している患者本人のニーズ調査の対象や方法を議論した。対象としては、①認知症の方は除く、②入院期間が1年以上の方、③入院患者が一番多いところを調査することが決まった。調査方法は対面形式で2、3名、手順は行政から病院に依頼文を出すことになった。調査項目は、日本精神科病院協会が平成27年に実施したニーズ調査を参考に来年度に決めていくことになった。

第8回は1月15日に開催し、主に事例検討を実施した。事例は、地域移行支援事業を利用して退院にうまくつながった方と、事業を使っても退院できなかった方の2つを出して、どこに課題があったかを議論した。その中で、入院している方が退院するにあたって初めてやることが多く、支援者側もやってみて初めて分かることがあるので、市内に宿泊を体験できる場所がもっと増えると良いと感じた。

【委員】（地域移行部会）

精神障害のある方の地域移行に関する具体的な取組を報告いただき、今後、武蔵野市でどのように展開していくかについて、それぞれの立場で意見を出し合っている。どのように地域での生活を支えていくかについて、事例検討等を通して地域課題が見えてきたという報告も聞いているので、東京都の事業や補助金も使いつつ、今までなかった取組ができる良いと感じている

【会長】

部会長から報告のあったニーズ調査の対象について、第7期障害福祉計画の項目と合わせる形で設定している。

体験の場という点では、今は拠点がそういう機能を持っているので、拠点との連携、連動が必要になってくる。今後の地域自立支援協議会の在り方については、基幹相談支援センターと拠点、協議会が連携しながら進めていくことが大事なので、その辺りも意識して取り組んでいけるのかなと思って伺っていた。

【委員】（住まい部会）

宿泊を体験できる場の話が出たが、住まい部会においても一人暮らしをする前に体験をしてみたいという意見がたくさん出ている。宿泊を体験できる場があれば、住まい部会として不動産会社につなげることができるので、そのような連携ができると良いと思う。

【委員】（当事者部会）

他自治体では、実習所などで自立に向けた訓練を少しずつ期間を延ばして実施でき

て、ヘルパーの使い方や指示の仕方などを体験する場がある。市内には無いので、バリアフリーのウィークリーマンション等を借り上げて住むことができたなら良いという話が当事者部会でも出ていた。

【委員】（住まい部会）

1月14日に第6回の部会を開催した。今期は、一人暮らしをテーマに、情報や制度を集約したハンドブックの素案を提案することと、事例を用いて地域資源の活用の仕方を考えるという2本の柱で進めてきた。活動の1つとして、不動産会社との座談会も行った。その中で見えてきた課題や感じたことを整理し、全体のまとめという形にしていきたい。

武蔵野市ではあんしん住まい推進協議会が関係機関、不動産関係団体と連携して取り組んでいるが、実際に話を聞いてみると、情報の共有や連携という点では課題が見えてきた。先ほど話が出た体験する場については、地域移行部会の取組でそのような場をつくり、その後住まい部会が不動産会社と連携するような形でつなげていけるとよいと思った。

【委員】（住まい部会）

住まいの問題は、不動産屋のような営利企業と行政、非営利の社会福祉法人等の団体が連携を深めていかないとなかなか進んでいかないので、今回、不動産屋に来てもらって話できたのは良かった。営利企業でも地域の役に立ちたいと思っている方はいることを知り、頼もしく感じた。

まずは地域の一人暮らしに向けた行政も含めた様々なサービスをまとめていく必要がある。また、不動産屋とのやり取りのスキルも一つのポイントだと思う。あとは、当事者の意思や希望、一人暮らしをしてからの支援といった課題をしっかりと掘り下げていくことで、徐々に解決策が見えてくるのではないかな。

【委員】（住まい部会）

武蔵野市は他自治体と比べて財政的に豊かだと聞いているので、宿泊を体験できる場所をつくれば良いと思う。不動産屋の話聞いたのはすごく良かったので、他の不動産屋とも同様の機会を設けられれば良いと思う。コミュニケーション不足でうまくいっていない面があることも分かった。直接話をする場をもっと増やすと違ってくるのではないかなと思う。

【委員】（当事者部会）

地域移行部会と住まい部会の連携という話があったが、地域移行の動機づけの部分と住まいを探す部分の連携もあるとよい。地域移行部会では精神障害のある方を中心に取り組まれているが、住まい部会では障害種別に関係なく協議していると思うので、うまく連携することによって障害種別に関係なく誰でも使える支援になると良い。

【会長】

地域移行部会は、動機づけ支援の手前の意向調査を行う予定になっている。その中で本人に退院の気持ちがあっても、何も体験していないし、いろんなことが分からないというようなときに、こういう形があるということが紹介できれば良いという話だったと思う。地域移行部会で動機づけ支援を具体的に進めるというよりも、現状はもう少し手前の段階ではないかなと思う。

【副会長】

私が所属する事業所にも一人暮らしをしている当事者がいて、引っ越しを希望されたときの物件探しに苦労している。知的障害のある方は支援者が一緒に探すが、やはり不動産屋を直接頼りにしていくことが多い。あんしん住まい協議会との連携を考える中で、どうしたら支援者に周知しやすく、使ってもらいやすくなるかという視点で話し合ってもらえるとよいと思う。ハンドブックも、当事者向けか支援者向けかで伝える視点が変わってくる。

【委員】（当事者部会）

あったかまつりで、模擬選挙はできなかったが、投票箱、投票用紙、記載台を置いた。期日前投票に行くという親子が来て、初めて選挙をするお子さんが、これならできると言っていた。実際の選挙でも練習の場や展示があれば、みんなが分かっているのではないかと感じた。

11月初めに中央公園でバーベキューをやった。介助者は利用人数にカウントされなかったが、当事者である利用者と判別できるように腕章をつけるように言われた。また、区画が狭くて、当事者と介助者が10人以上になったら大変だと思った。

先日、何時から何時までうちに来て、漫画を読んでもいいし、テレビを見てもいいし、お菓子を食べてもいいというようなメールが私宛てに来た。こういうのも楽しくて、「あったらいいな」の中に入るが、個人の負担が増えるのでZoom等でやってもいいと思った。

【委員】（当事者部会）

交流・集いプロジェクトは、12月18日に、けやきコミュニティー協議会の委員5名と打合せを行った。交流・集いプロジェクトのこれまでの経過を話し、けやきコミュニティー協議会からはコミセンに限らず、大野田地域のイベントについて丁寧に教えていただいた。2月18日のボードゲームの会に参加しようと思い、当事者の方に声をかけている。5名の委員の方からは、当事者と出会えていろいろなお話を聞けたことが有意義だったとお話をいただいた。今回のような集まりを市内のあちこちでやることで、つながりが広がっていくことを実感した。

【委員】（当事者部会）

障害のある方に対して声をかけていいか迷うこともあるが、直接話をするることによって、障害のある方に対する接し方も変わると思う。

先日、病院へ行くバスの中で、ヘルプマークをつけた高齢者が席を譲ってもらえずにずっと立っていた。ヘルプマークについて理解が広がるとよいと思う。

【委員】（当事者部会）

コロナ禍の前にふれあいカフェを実施していた頃は、市内のコミセンを毎年1つずつ回って、小規模でお互いに触れ合う活動をしていた。市内で開催しているイベントや定例的な会合に参加することと併せて、協議会主催のふれあいカフェを再開することで活性化できるとよい。交流したいところはたくさんあり、人員的に限られるかもしれないが、いろいろなところと効率よくつながっていければと思う。

【委員】（当事者部会）

部会には参加できなかったが、コミセンのイベントへの参加についてメールをもら

ったので、職場でも共有した。来年、実現したときはよろしくお願ひしたい。

【委員】（当事者部会）

当事者部会は月例会を開催しており、いろいろな意見が出る。居場所や行きやすい場所があるとよいという意見がたくさんある反面、行った先にどういう人がいるか不安だとか、何かをしなければいけないのはしんどいという意見もあり、気楽に参加できる場所があってもよいと思う。

今月の部会では、緊急時の連絡先が無いという話が出た。また、過去に「はたらく部会」があったが、働くことに関する制度が欲しいという話もあった。部会が変わっても、継続的に話し合っていける仕組みがあるとよいと思った。

【会長】

皆さんの話を聞いていて、「出会う」や「つながる」といったキーワードがあり、大きな動きよりも、地道に足を運んで人と人が出会い、そこから何かが発展していくという可能性を感じた。部会の活動も、他とつながらないとなかなか進んでいかない。この2年間の活動の中で、どことつながって、どういうことがあったかという関係図をつくるだけでも全然違うと思ったので、まとめのところで、ぜひご検討いただきたい。

(2) 全体会の実施内容について

【事務局】

（3月10日（月））に開催される全体会について、資料1に沿って説明）

【委員】

全体会の時間の枠はどれくらいか。

【事務局】

18時30分から20時30分を予定している。

【会長】

グループディスカッションのテーマについて提案はあるか。

【委員】

年1回の全体会でいきなりグループディスカッションというのも難しいと思うので、その前に拡大当事者部会のような形で当事者の話を聞いた上で話し合いをしてはどうか。当事者2、3人がパネラーとなって、住まいのことや遊びに行っている場所など、いくつかの話題について司会とやり取りをするというイメージである。

【会長】

時間的にすべてをやるのは厳しいと思うので、ディスカッションの中でグループごとに当事者の方を囲んで話し合うという方法もあると思う。

資料にこれまでの全体会のテーマを記載しているが、この内容に縛られる必要はないので、こういう話をしたいとか、こういう機会をつくりたいというものがあれば発言いただきたい。

【委員】

過去10年分のテーマを拝見して、平成27年度の「もっと皆に知ってもらおう」という部分が気になっている。東京都のサービス管理責任者の研修のカリキュラムに自立支

援協議会のことが出てくるが、参加者は自立支援協議会のことを知らない方が多い。とても意義深い活動をしているので、もっと知ってもらうにはどうしたらいいかを考えてもよいと思う。

【委員】

今日の会議の話でも、今期の各部会の活動でも「居場所」や「つながり」がテーマになっている。この2年間で新たに築いた「居場所」や「つながり」を全体で共有できるとよいと思う。

【委員】

つながるための課題は、全部の部会に共通する課題だと思う。近所の人に出会ったら挨拶するでもいいし、いろいろな方法があると思うので、それをみんなで考えるのもよいのではないか。

【会長】

みなさまから今いただいた提案を基に、正副会長と事務局とで調整したい。

(3)その他

【委員】

親会委員は協議会に出席する際に謝礼が支払われているが、専門部会員の活動では謝礼の支払いは無い。職員同士で横のつながりができるのは素晴らしいことだと思うが、自分の仕事が終わってからいろいろ議論されているので部会員に対しても謝礼や手当があっても良いと思う。

【事務局】

現段階では、ご意見として受け止めさせていただきたい。